

# ガーダシルの被害者: カースティさん、ニューヨーク州リマ出身

2011年11月22日

カースティの母、シャロンさんによる談話



カースティさん、ニューヨーク州

ガーダシル以前のカースティの人生は、とても多くの活動に満ちていました。ドッジボール、夏のレクリエーションでのゲーム、サッカー、バスケットボールにソフトボールなど。彼女は音楽にも非常に才能があつて、クラリネット、サクソフォン、ウクレレ、ピアノを弾き、学校のコーラスではいつも歌っています。カースティは積極的にミュージカルの授業と学校の演劇部に参加しています(学校の演劇やミュージカルで主役をしたことがあります)。彼女の夢は、歌を仕事としたり、音楽関係の職業に就くことです。彼女は幅広い興味を持った優等生です。幸いなことに、音楽の面では彼女の人生はガーダシル接種後の健康問題の影響を受けていません。

カースティは2007年4月23日に1回目のワクチン接種をし(当時12歳)、その時は何もおかしいことはありませんでした。その後2-3週間のうちに、大きな黒っぽい痣が腕と足にでき始め、私はそれをサッカーや(彼女はゴールキーパーでした)ラクロスのせいだと思いました。夫は痣のことを心配し始めていましたが、私には何も言いませんでした。5月29日に彼女は2回目の接種を受けました。この時もあつたのは痣だけでした。6月17日、彼女にとって2回目の月経が始まり、10日続きました。6月18日、私は連鎖球菌咽頭炎の検査のために彼女を医者に連れて行きましたが、結果は陰性でした。ナース・プラクティショナー(一定レベルの診断や治療などを行うことができ

る上級の看護師)は痣についてコメントし、カースティがスポーツをすることを言いました—彼女は痣については心配していませんでした。

6月29日に遊園地にいた時、カースティは臍から出血し始め、それが2時間続きました。出血は止まりましたが、翌日また始まり、2時間ずっと出血が続きました。7月2日の月曜日、私は彼女をかかりつけの小児科医院に連れていき、そこで血小板数が非常に低い(18,000)ことがわかりました。私達は、直ちに小児血液専門医に診てもらうために病院へ送られ、そこで彼女は特発性血小板減少性紫斑病(ITP)だと言われました。

カースティは HPV ワクチンをした以外に変わったことはしていないと私が言うと、医師は、その月に自分の孫娘が1回目を受ける予定だから、これはちょっと考えなくてはならないといいました。ワクチンが娘の ITP の原因である可能性が確かにあることを彼が述べたのはこの時だけです。ITP の原因は誰にもわからず、また ITP はウイルスによって起こることがあると考えられていたので、この時カースティがウイルスに感染していると診断されたことで、原因はワクチンではないと医学の専門家が考えるには十分でした。けれど、そのウイルスは、もしそれが存在したとしても、カースティが接種を受ける前には現れなかったのです。

その年の夏はずっとカースティの血小板数は下がり続け、7月末に彼女は血小板数のレベルを正常値に上昇させる治療を受けました。治療は30日ほど続き、その後の血小板数は数か月間低い値でした。ITP のせいでカースティはサッカー、バスケットボール、ソフトボールのシーズンをいくつも逃しました。去年(2010年)は彼女は全てのシーズンに参加できませんでした。現在の血小板数は低すぎてスポーツはできません。彼女は鼻血が出たり、極端な痣や出血に苦しんではいないので、彼女の状態は私達が血小板数を検査しなければわかりません。

私達はラッキーでした。2010年の春、彼女は伝染性単核球症(EBウイルス感染症)にかかったのですが、彼女の血小板数はそれほど下がらず、早く治りました。カースティは ITP で体調が悪いわけではないのです。ITP が影響するのは本当に、相手の体に接触するスポーツをするときだけなのですが、それは彼女の人生の大きな部分なのです。私達はもちろん、彼女の状態がよくなり、健康に戻り、好きなこと全てをまたできるようになることを願っています。